

— 広 告 —

KIT
キャンパス
レポート
文・杉村裕之



宮崎 紗弥香 (みやざき さやか)
金沢工業大学大学院工学研究科
機械工学専攻
博士前期課程二年
愛知県 清林館高等学校出身

進路と研究テーマの原点は チャレンジャー号の事故。

両親とよく出かけた海外旅行の影響で、幼い頃から無類の乗り物好きだった。その思いは成長しても変わらず、現在、宮崎さんが取り組む研究は、音速を超える飛翔体にダメージを与える衝撃波干渉の解析法である。

その目的を要約すれば、「いかに安定した飛行を実現するか」。そして、これを研究テーマとした原点

は、中学二年生の時、たまたまテレビで見たドキュメンタリー番組だった。「内容はスペースシャトル・チャレンジャー号の爆発事故でした。それまで普通に飛んで当たり前と思っていただけに、言葉に表せないほどのショックを受けました。同時に、将来の自分の道が鮮明になったのです」。

描いた夢を追って、大学進学で

は航空工学の学科のある学校を選んだ。「第一志望で受験した国立大学がだめで、高校の先生の勧めで航空システム工学科があるKITに入りました」。当時を振り返り「少しめげたかな」と笑みがこぼれたが、KITが特色ある課外活動として実施する「研究室体験プログラム」に、意識をリセットして

一年次から参加。数値流体力学や航空機の環境適合性向上を専門にする佐々木大輔教授の研究室を訪ね、「面白くて二年、三年次も参加し、そのまま佐々木研究室に入りました。先生からは航空工学だけでなく、広い視野と人間力の大切さを学びました」。

その鍛錬の場となったのが、夢考房が小中高生を対象に開くサマライサイエンススクールや、工学教育の世界標準となっているCDIO Oプロセスを実践するCDIOアカデミーなどである。宮崎さんは運営をサポートするスタッフに加

わり、「CDIOアカデミーでは、担当した多国籍チームの学生と三日間を過ごす中で、自分の知識や英会話力がまだまだということを感じ知らされ、大変な刺激を受けました」と話す。また、四年次にはボーイング社がKITや東京大学、名古屋大学など七大学を対象に開いた教育プログラムにも参加し、航空に関する専門知識や英語力を磨く経験を積んだ。

来年四月からは、航空・鉄道車両用機器などの装備品や技術でトップシェアを誇るナブテスコが新たな舞台となる。「安全な輸送を手がけられる喜びと緊張を感じています。究極の目標は、地球と宇宙を航空機のように往復するスペースプレーンの開発に携わること」。十四歳の決心を具現化する滑走路に立ち、テークオフの準備は整った。

金沢工業大学

石川県野々口市扇が丘七二
電話番号：〇七六二四八一〇〇〇